

CT 画像所見に基づく直腸肛門異物の経肛門的摘出可否判定と腹部圧迫手技の有用性に関する後ろ向き観察研究

研究協力をお願い

この研究は、日本医科大学中央倫理委員会の承認および研究機関の長(学長:弦間昭彦)の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して行います。研究目的や研究方法是以下のとおりです。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもって実施します。

皆様方には研究の趣旨をご理解いただき、この研究へのご協力をお願いします。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問などは下記の問い合わせ先へご連絡ください。

1. 研究の対象

2010 年 1 月 1 日から 2025 年 12 月 31 日までに日本医科大学付属病院において直腸肛門異物と診断され、摘出前に診療過程で腹部 CT 検査が施行された患者さん。

2. 研究の目的

この研究の目的は、直腸肛門異物症例において、診療目的で撮影された腹部 CT 画像所見と、経肛門的摘出が成功したかどうかとの関連を後ろ向きに検討し、経肛門的摘出の適応判断に役立つ臨床的指標を明らかにすることです。

3. 研究の方法

この研究は、日本医科大学付属病院で実施する研究で、研究責任者は消化器外科 岩井拓磨、研究事務局は消化器外科 松井隆典です。

2010 年 1 月 1 日から 2025 年 12 月 31 日までに日本医科大学付属病院において直腸肛門異物と診断され、摘出前に診療過程で腹部 CT 検査が施行された患者さんの診療録および腹部 CT 画像などの既存情報を用いて、どのような CT 所見のときに経肛門的摘出が可能であったかを検討します。

研究実施期間は実施許可日から 2027 年 12 月 31 日までです。

この研究は、外部機関との利益相反はありません。

4. 研究に用いる試料・情報

この研究は、患者さんの以下の情報を用いて行われます。

試料 : なし

情報 : 年齢、性別、併存疾患、血液検査データ、直腸肛門異物の種類・形状・大きさ、摘出前の腹部 CT 画像所見、摘出方法、腹部圧迫併用の有無、鎮静または麻酔使用の有無、摘出後合併症の有無

利用を開始する予定日 : 実施許可日

情報の取得の方法 : 研究目的でない診療の過程で取得

この研究に関する情報は、個人が容易に特定されないよう記号化した番号により管理されます。情報は施錠可能な消化器外科医局内に設置された、インターネットに接続されていないパスワード保護され

作成日 : 2026 年 1 月 12 日

たパーソナルコンピュータに保管されます。患者さんの個人情報、個人が特定できる形で使用されることはありません。

また、患者さんから、研究を継続されることについて同意の撤回がなされた場合は、個人情報は速やかに廃棄し、この研究に用いることはありません。なお、研究結果の報告、発表に関して、個人を特定される形では公表しません。

5. 問い合わせ先窓口

この研究に関するご質問などがありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の患者さんの個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することができます。

また、情報が研究に用いられることについて、患者さんまたは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究の対象としませんので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

日本医科大学付属病院 消化器外科 岩井拓磨

〒113-8603 東京都文京区千駄木 1-1-5

電話番号 : 03-3822-2131 (代表) 内線 : 6752

メールアドレス : takumaiwai@nms.ac.jp